【まなび４】活動報告書

平成29年度　漢字まなび活動助成　活動報告書

団体名：　　長崎日本大学中学校
代表者名：　　今井　愼一郎

下記の活動について活動を終了いたしましたので、報告いたします。

記

１、活動名　長崎日大中“漢検教室”
２、活動日・活動期間　①平成２９年９月６日（水）～１１月８日（水）の ①講座　②検定　毎週水曜日（全１０回）　１７：３０～１９：００ ②平成２９年１１月１０日（金）１８：００～１９：００
３、活動場所　長崎日本大学中学校　大会議室
４、活動目的　近隣地域の小学５・６年生に対して、漢字力の向上・定着の機会を提供する。また、実際に漢字検定を受検して漢字力の伸長を実感してもらい子どもたちの「漢字まなび」に対する意欲向上を促す。
５、対象　諫早市・近隣地域の小学５・６年生
６、参加費　２，５００円 （ただし５００円は教材書籍の代金の一部、２，０００円は漢字検定の検定料負担であり、指導・活動内容に関しては実質無償である。）
７、参加人数　３０名 内訳　（小学生　３０　名、中学生　　名、高校生　　名、一般　　名）
８、活動結果〈その１〉 **１）漢検教室　漢字検定対策学習の方法** ①『いちまるとはじめよう！わくわく漢検５級』 →１日に見開き１ページずつを宿題として指示した。更に、問題を一部抜粋・加工して確認テストを作成し、漢検教室の最初に実施して定着度を確認した。 ② 担当者による授業 第１回「音読みと訓読み」 第２回「熟語の構成」 第３回「四字熟語」 第４回「画数」 第５回「部首」 第６回「送り仮名」 第７回「対義語・類義語」 →１回の漢検教室につき１つの分野別対策を目標として指導した。講義形式による説明の後、類似問題をプリントで配布し、理解度を確かめながら学習を進めた。 「四字熟語」は、既製品の四字熟語カルタで遊びながら、また「部首」はＰＣでネット上の問題に取り組むなど、飽きさせない授業の進め方にも配慮した。

本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えのないものをご提供ください。

８、活動結果〈その２〉

③ 過去問・予想問題

→漢検教室スタート時点での受講生の力量を確認するため、貴協会九州事務所に相談の上、１回分の本試験過去問を実施した。

その後も、本校で購入・使用している漢検対策の教材や漢字学習のテキストを使って、類似問題を実施した。各講座の後半４０～４５分程を割いて実施した後に、担当者が採点。結果はExcelにて作成した、右表のような形で個々に返却し、子どもたちに自分の強み・弱みを自覚してもらうことに努めた。これにより、自発的に分野別の対策を家庭で行なう生徒が増えた。

また、６０分かけずに余裕を持って解答を終えることができ、確実な見直しをして問題を解き終える習慣が身に着いた。

④ iPadを使用した模擬テスト

→漢検教室終盤（８～１０回）は、➢ 個々の生徒が自分のペースで問題を解き、即時的に正誤を確認して復習ができること。➢ 違う学習方法、特に機械を使うという新しい刺激を加えることによって、漢字学習に対する講座初期の新鮮な気持ちを思い出してもらえること。　などに期待して、タブレット「iPad」を学習アイテムとして利用した。

幸い、本校では平成24年度に「漢字・日本語教育研究助成」を受けており その際にiPad40台に２級～５級まで全ての「漢検に挑戦」（株式会社イマジニア）がアプリとしてインストールできている。現在は上位アプリが存在し、更新不能であるが、充分使用に耐え得るものであり、子どもたちも強く興味を示し没頭した。

２）漢検教室　子どもたちの反応

序盤は勝手が分からず戸惑い気味だった子どもたちも、３回目ぐらいからは順応し楽しげに学んでくれた。確認テストや予想問題の成績が伸びると素直に喜びを露わにし、そんな純粋な反応が指導者側のやる気にも繋がった感がある。また、回を追うごとに、開始前や休憩中に自分

本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えのないものをご提供ください。

８、活動結果〈その３〉

の小学校で使っている漢字テキストや、家庭で購入した独自の教材を目にすることが増えていった。子どもたちに聞くと「『いちまるくん』に慣れたら、すぐ終わらせることができるようになって少し物足りなく感じ、もっと漢字を勉強したくなって…」という旨の返事が多かった。言うまでもなく、彼らの漢字学習はこの漢検教室だけで完結するものではない。漢字検定に合格したいというモチベーションがきっかけとなり、学ぶ習慣・意欲の向上へと結びついたのであれば、漢検教室実施の副次的効果と言って良いだろう。

３）漢検教室　漢字検定５級受験の結果

全１０回の指導を終え、１１月１０日（金）に本校を準会場として検定を受検し、１２月上旬に結果が判明した。以下、高点順（左上より）に結果を示す。

本検定 ⬅	初回過去問	本検定 ⬅	初回過去問	本検定 ⬅	初回過去問
199	160	181	108	168	69
196	123	181	113	163	142
194	112	180	67	160	109
193	87	180	113	159	87
192	91	179	90	147	50
192	134	176	110	147	53
191	127	173	76	128	29
190	102	171	82	110	48
188	78	171	62	77	57
182	97	168	112	64	30

全受講者３０名中２６名が合格、合格率８６．７％という結果となった。全員の合格を目指してきたので、決して満足というわけではないが、子どもたちの頑張りが「合格証」という形となって報われることは喜ぶべきことである。特に、初回実施の過去問演習（前述）と比較すると、全ての子どもがこの２ヶ月で大幅に得点力を向上させてくれていることが一目瞭然である。この成功体験が“努力すれば何事も成し遂げられる”という自信になり、今後の学習や生活を充実させることへと結びつくことを願うばかりである。

異なる２０校の小学校から集い、ともに漢検合格という同じ目標を目指して頑張った子どもたちは、いわば“仲間・同士”である。心から敬意と感謝の気持ちを届けたい。

漢字検定受検後
３０名全員で →

本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えのないものをご提供ください。

８、活動結果〈その３〉

４）漢検教室　今後の活動について

漢字検定の成績表・合格証など書類一式を、漢検教室の受講のお礼状とともに全家庭に郵送した。すると、間もなくして多数の保護者様から折り返しの連絡を頂戴した。指導に対するお礼が大半を占めたが、

○さっそく「次は４級を受検したいと言い出した。本会場での受験方法を教えてほしい。

○今回、５年生で参加したので来年も参加したい。予定を教えてほしい。

○合格して自信がついたようで、他教科も意欲的に勉強するようになった。

○家に帰ってきて、まず宿題をしたり教科書を開いたりするようになった。

など、嬉しい報告もいただいた。初めての試みということで試行錯誤しながらではあったが、一定の評価を得ることができる活動となり安堵している。

今回は、学園創立５０周年記念事業として、地域社会への恩返しがしたいという思いから取り組んできた。次年度以降に関しては、国語科内でも検討が必要であろうが、担当者としてはぜひ継続していきたいと考えている。そして、対象級や対象者を広げ、「長崎日大が地域の“学びの発信源”」であると認知されるようになれば、これほど嬉しいことはない。

くしくも、新学習指導要領の改訂においては「社会に開かれた教育課程」がキーワードとして掲げられている。ある時は、小学生が義務教育においてきちんと習得すべき漢字を学び、またある時は、高齢の方々が趣味や頭脳の活性化を目的として漢字を嗜む。本校がその拠点となることも、改訂に対して一つの具現化した答えになり得るのではないかと、今回の活動を通してヒントを得た。

この漢検教室の活動を全うすることができたのは「漢字まなび活動助成」を通して、日本漢字能力検定協会様より並々ならぬご支援とご助言を賜ることができたからこそである。また、ご担当の鋤納様からは「学校からの申請としては第１号であり、頑張っていただきたい」と力強く背中を押していただいた。末筆ながら、関係各位の皆様に厚くお礼を申し上げ、報告を終えることとする。

以上

本報告書の内容は、当協会ホームページ等で公表します。写真等は公表しても差し支えのないものをご提供ください。